

(六)	が	他	で	自	自	自	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)			
a	え	者	あ	分	己	分	裏切りつつ変化していった当人の生の動きを自らの内に追体験すること。	ある死者が残した様々な足跡を追うことで、そのつど与えられる像を	自分の動きを含んでおらず、生成する自己の一断面ではないということ。	ある時点で他者が認めた自分らしさは、その認定とともに変容していく	ままにならぬ他者からの応答によって再構成されて初めて成立するから。	自分らしさをもちたらず生成の運動は、世界に対する自分の働きかけが意の	統合されていくはずの過去の自分を、現在の自分と別に設定して、るから。	過去を現在の自己の差異を貫く不変の自己という発想は、現在の自分に
獲得	る	に	り	や	が	ら								
b	と	よ	つ	他	組	し								
高潔	き	っ	づ	人	み	さ								
c	に	て	け	が	か	と								
依然	立	感	よ	認	え	は								
依	ち	じ	う	め	ら	他								
	現	と	と	る	れ	者								
	れ	ら	す	自	ら	の								
	る	れ	る	の	の	の								
	も	他	が	イ	方	の								
	の	者	の	メ	向	中								
で	の	死	ジ	性	で									
あ	う	し	か	ら	あ									
る	ち	て	ら	自	り									
。	に	な	自	由	断									
	よ	お	由		に									
	み	お	由		に									

第二問

(三)	(二)	(一)		
		オ	イ	ア
雪によりて京とのつばがリも断たれたように感じ、心細くなつたから。	色彩豊かにするよりも白一色の重ね着の方がかえり趣深いという事。	オとも気の毒なことと見申し上げテ	イ 勤行を途中でやめテ	ア 以前とも違イ

第三問

(四)	(三)	(二)	(一)
<p>誰がおまえの大事な物を奪い取ったりするのか、おまえの物を取 るような愚か者などいるはずがない。</p>	<p>司馬相如の玉製の印と高西園自身の妻。</p>	<p>不</p>	<p>前漢の司馬相如の名刺を携えた人物が自分に面会を求め、夢を見た が、何の前兆がわからなかったという事。</p>